

小雨が降る5月のある日。新型コロナウイルスの影響による献血者不足を補うため、「1000人献血の会」主催による献血が実施されている中、一人ひとりにお礼を伝える田中さんの姿がありました。

「雨にもかかわらず、こんなに多くの方に献血に来てもらえてありがたい」と、感謝の眼差しで献血者を見送ります。

「1000人献血の会」は、献血の啓発や献血者を増やす活動を行い、今年で32年目。田中さんは、平成2年から活動に参加し、今では同会の代表を務め、力強く会を引っ張っています。

参加当初は「イベントの手伝いをしていて感覚だった」といいますが、陶芸家で「滋養骨髓献血の和を広げる会」の代表、神山清子さんとの出会いが、田中さんの献血に対する意識を変えました。田中さんは、神山さんの骨髄ドナーへの向き合い方や活動を目のあたりにし、献血の意義と向き合い、活動してきたいと考えるようになりました。

直接誰かに役立っているということが見えない献血。この活動がどのような役に立つのかを認識してからは、特に、献血者数を意識するようになった

原動力は長浜人のDNA



1000人献血の会 代表

田中 猛士さん (勝町)

といえます。

田中さんはその意識とともに、気持ちよく献血してもらえようという声かけや、献血の必要性を丁寧に説明するようにしています。

献血に真摯に向き合い、懸命に取り組むその姿からは、田中さんの熱いパワーを感じますが、「ただ、長浜の先人の活動に影響を受けて突き動かされているだけ。長浜人としてのDNAだけが説明ができない」と笑います。

ある年の献血イベントは、暴風雨により、開催をするかの判断が迫られる状況でした。当初予定していた催しができないうちで工夫をこらし、何とかイベントを開催し、献血者を集めることができました。血液センターの職員から「献血者を集めることができ、助かりました。これで救われる命があるんです」と言われ、田中さんは活動を感じないといけない」と強い使命感を感じました。

献血に訪れた人が「献血者が足りないと聞いて来た」と当然のことのように話しているのを知り、長浜に献血の意識が根付いたのは、活動を続けてきたからこそだと誇らしげな表情を浮かべます。

イベントの開催を続けつつも、「時代にそぐわないものは、すぐダメになる」と、新しい試みも取り入れます。

ボランティアの世代交代、若年層への啓発などの課題もあるものの、形は変わっても続けることは大事だと話す田中さん。その熱い思いは揺るぎなく届き、確実に長浜に根付いていきます。



湖北中学校

「自治の力」の育成を

めざした生徒会活動

本校では、生徒が主体となった学校づくりを大切にしています。次代を担う子どもたちが社会を生き抜くためには、課題に気づき自ら解決できる力が求められます。

本校生徒会では、「私たちの学校は、私たちの手で」を合言葉に、本校の課題を明らかにし、具体的な取組を全校生徒に呼びかけ、課題改善に努めています。

前年の2学期に新しい生徒会本



▲交差点の生徒による交通指導

長浜子どものちがい～わたしたちはちがいます～

- 元気にあいさつをします
- 名前を呼ばれたら「はい」と返事をします
- 「ありがとう」「ごめんなさい」をすなおに言います
- 困っている人がいたら言葉をかけます
- 人の話をしっかり聞きます

長浜子育て憲章～おとなが実践します～

- 子どもに誠実に生きる姿を見せます
- 見守るまなざし、叱る勇気を大事にします
- ルールとマナーを教え、奉仕の心を育みます
- 自然や人々に感謝の心でふれあう子どもを育てます
- 長浜に誇りをもち、地域に貢献する子どもを育てます



学校・教育関係の情報が満載

◀市教育委員会フェイスブック

今後、自らを考え、行動できる生徒の育成をめざした学校づくりを努めたいと考えています。

長浜市の情報をスマホでチェック

長浜市 ホームページ	Facebook 長浜市ほっとにゅ～す	Facebook 長浜市教育委員会	Instagram ＃長浜ちよびつく	YouTube はま～るtb.	広報紙をスマホで マチイロ	イベント情報を配信 LINE

人口と世帯数
令和2年6月1日現在

人口	117,329人(-59)
男	57,508人(-44)
女	59,821人(-15)
世帯数	46,455世帯(+4)
	()は前月との比較